

舞鶴市議会議長
上野修身 殿

作成日 平成30年 8月28日
鶴翔会議員団
幹事長 亀井敏郎

行政視察報告書

以下のとおり行政視察の報告をいたします。

1. 所属会派：鶴翔会議員団
議 員 名：亀井敏郎 松岡茂長 田村優樹
2. 日 程：平成30年7月2日（月） ～ 平成30年7月5日（木）
3. 視察先1 神奈川県 横須賀市（横須賀市議会）
視察先2 神奈川県 横浜市（横浜市港湾局）
視察先3 北海道 稚内市（稚内市議会）
視察先4 北海道 函館市（函館市議会）
4. 経 費：356,432円

視察先 1

神奈川県 横須賀市（横須賀市議会）

視察日時：平成30年7月2日（月） 13：30 ～ 15：30

視察項目：1 救急医療支援システムについて
2 市民病院の指定管理への移行について

主な内容

- 1－① ユビキタス救急医療システムについて
② 災害時情報共有システムについて
- 2－① 指定管理の経緯について
② 市民病院の将来像について

対 応 者：横須賀市議会事務局総務課長、議事課主任

横須賀市消防局救急課課長

横須賀市市長室危機管理課災害対策係長、主任

横須賀市健康部市立病院担当課長、係長

ユビキタスネットワーク研究所 博士・技術士

主な取り組み

横須賀市では、平成15年度から災害時における被災状況や住民安否などの情報を関係者間で迅速かつ確実に共有するために「災害時情報ネットワークシステム」をNTT東日本か

ら導入活用してきたが、より高度な情報処理システムの活用を目指し、平成25年度からは2代目プロポーザル方式によるシステムを日本ユニシスにより開発、特徴は、タブレット端末を活用し、誰でも使用できるよう画面構成が簡素化され、利用場面は災害時を想定したもので、防災関係部局以外の職員の習熟度が低い者でも直感的に操作できるような構成にしていた。

機能的には、情報共有機能、災害情報管理機能、罹災証明発行管理機能、メール通信機能などがあり、時系列に沿って、いつ、何が起こったか、何をしたのかを確認できる。記録した内容のうち、必要な情報が共有でき、欲しい情報を検索してすぐに見つけることができる。

こうした情報システムは、救急業務の高度化（ICT）にも効果的で、医療機関との情報共有、傷病者情報（画像伝送等を含む）、緊急度の判定支援にも活用されるなど、救急車の位置情報の把握、連携で、リアルタイムでの病院選定、救急現場において、傷病者のバイタルサイン等を入力し、緊急度判定を支援することができるというものであった。

また、更なるシステムの向上を目指して、ICT救急医療推進協議会が設置され、医療機関3施設、消防局、横須賀市などの構成により、システム導入における効果と課題の検証もされていた。

市民病院の指定管理と将来像については、全国の公立病院を取り巻く環境が厳しい中、総務省が平成19年に発表した「公立病院改革ガイドライン」に示された、「経営の効率化」「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」の3つの視点から公立病院の抜本的な改革を求めたことから、これに基づき、平成21年3月に「横須賀市立病院改革プラン」を策定、平成22年4月には市民病院において指定管理者制度を導入する等、経営の改善に努めてきたところで、総務省が平成27年3月に発表した「新公立病院改革ガイドライン」を鑑み、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を加えた4つの視点から公立病院のさらなる改革が進められていた。具体的な取り組みでは、国立横須賀病院の移譲を受けた横須賀市立うわまち病院の老朽化問題、横須賀市立市民病院の赤字補てんがあり、横須賀市は今後の地域の医療需要を鑑みながら、市民が安心して暮すことのできる医療環境を整備するため、市立2病院が担うべき役割や連携についての検討などがなされてされていたが、市民病院の将来像については明確にできていない現状があることが懸案であるとのことであった。

視 察 先 （横須賀市議会）



行政視察先 2

神奈川県 横浜市（横浜市港湾局）

視察日時：平成30年7月3日（火）9：30 ～ 11：30

視察項目：横浜港港湾計画について

主な内容

- ① 臨海部における賑わいの創出について
- ② 臨海部（山下ふ頭）再開発について

対 応 者：横浜市港湾局山下ふ頭再開発調整課担当課長

横浜市港湾局政策調整課長

横浜市港湾局賑わい振興課長、係長

株式会社横浜赤レンガ営業部長、イベント事業部長

主な取り組み

横浜は、1859年の開港以来、港とともに発展し、開港150周年を契機に横浜の象徴である都心臨海部・インナーハーバーについて次の50周年を見据え、将来の都市像やまちづくりについて検討されている。中でも、「みなとオアシス横浜港」構想は、地域住民の交流や観光振興を通じて地域の活性化に資する港を核としたまちづくりを推進するもので、国土交通省港湾局が策定する「みなとオアシス運営要綱」に基づく新規登録第1号にも登録されている。そうしたことから、魅力的な水辺空間としてクルーズ船の魅力や楽しさを伝えながら、クルーズ市場の拡大に寄与することを目的に大さん橋国際ターミナルを中心とした各種イベントの開催等による賑わいの創出も盛んで、組織的には、「ヨコハマ水辺空間活性化懇談会」に属する学識経験者、地元関係者、行政等が横浜港の内港地区及び金沢地区を中心に、豊かで賑わいのある水辺空間の創出につながる検討に関する意見交換等もなされ、世界に誇るウォーターフロントの実現を目指されていた。

また、山下ふ頭の再開発では、物流主体の土地利用を見直し、市街地との近接性など優れた立地特性を活かした新たな賑わい拠点の形成に向けた取り組みや、大規模で魅力的な集客施設などの導入が可能となる土地利用へ転換するとともに、山下公園との連続性を考慮した緑地やプロムナードの配置にも取り組まれ、港とともに発展するまちづくりを実感した。

視 察 先 （横浜市港湾局）



行政視察先 3

北海道 稚内市（稚内市議会）

視察日時：平成30年7月4日（水）9：20 ～ 11：30

視察項目：「次世代エネルギー」について

主な内容

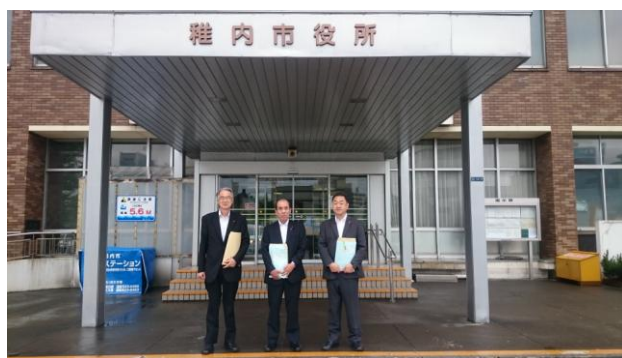
- ① 新エネルギーをはじめとした次世代エネルギーについて
- ② さまざまな施設との観光連携について
- ③ 現状及び今後の課題について

対 応 者 稚内市議会事務局 事務局長、庶務課長、主任
稚内市環境水道部環境エネルギー課長
わっかない勇知いも研究会 副会長

主な取り組み

稚内市は、日本最北に位置し、日本海とオホーツク海に囲まれ、対岸にサハリンを望む雄大で豊かな自然に恵まれた環境で、年間平均風速は舞鶴市が2.3mであるのに対して稚内市は4.5mで、宗谷岬では7.5mといった風のまちであり、年間降雪量も舞鶴市の3倍以上で656cmといった豪雪地帯である。稚内市では、豊かな自然や、かけがえのない地域環境をより良好なものとして次の世代に引き継ぐため、風や太陽などの地球にやさしいエネルギーを活用した地域社会の姿を全世界に発信するため、市民、事業者、市が協働し、積極的に環境保全活動に取り組む中、再生可能エネルギーの導入拡大への課題としては、風力発電は偏在性、変動が大きく、開発までのリードタイムが長いこと、風力適地は調整力が弱く広域的な運用、大型蓄電池の技術開発が必要なことなどがあり、エネルギーの地産地消事業では、市民還元・積雪寒冷地の課題克服（市民生活の向上）・防災力強化（安全・安心）、一次産業、製造業での活用などが挙げられていた。雪氷等の自然冷熱利用による貯蔵庫では、冬季の冷たい外気により水を凍らせ、その氷を冷熱源として春から秋までの期間、貯蔵庫内温度を一定の温度に保つための雪氷冷熱エネルギー利用システムの開発に取り組み、農産物の貯蔵技術や研究、新たなエネルギーの利用技術の確立と実用化を図られていた。

視 察 先 （稚内市議会）



行政視察先 4

北海道 函館市（函館市議会）

視察日時：平成30年7月5日（木）9：30 ～ 11：30

視察項目：函館市過疎地域自立促進市町村計画について

主な内容

- ① 産業振興の現状と問題点について
- ② 交通通信体系の整備、情報化および地域間交流の促進について
- ③ 高齢者福祉等、生活環境の整備について
- ④ 医療、教育、地域文化の振興について
- ⑤ その他地域の自立促進に関し必要な事項について

対 応 者：函館市議会事務局議事調査課長、主事

函館市企画部計画推進室計画調整課職員

主な取り組み

函館市では、人口減少・過疎化の要因として、出生数の減少等による自然減と、進学のほか、就職や雇用の機会を求め、東京や札幌などの大都市圏への若い世代の転出等に起因する社会減など、若年層の流出に歯止めがかからないことが主な要因となっており、本市の状況ともよく似たところが感じ取れる。これまでの過疎地域対策では、道路、下水道、簡易水道、公営住宅、消防・防災および地場産業や観光の振興など、社会基盤や定住環境の整備に努めてこられたところで、平成26年には全市域が過疎地域に指定され、魅力あるまちづくりと地域の振興発展のための諸施策の発展が求められる深刻な状況であるとのことであった。今後においては、将来の人口動向を踏まえた新たなまちづくりの方向性として、市街地の拡大抑制、既存の公共施設の有効活用、都市機能の集約化、将来にわたって持続可能なコンパクトなまちづくりの推進、地域コミュニティや生活環境の維持、市民はもとより函館を訪れるすべての人にとって魅力あるまちづくりを推進、社会経済的発展の方向性に取り組むとのことであった。本市の過疎地対策の有効性を見直す機会となりました。

視察先（函館市議会）

